

製品名: サイクリン E1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21594**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:400-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:47kD;Observed MW:47kD

抗原情報

遺伝子名	CCNE1
別名	CCNE1;CCNE;G1/S-specific cyclin-E1
遺伝子 ID	898.0
SwissProt ID	P24864
免疫原	ヒトサイクリン E1 の合成ペプチド

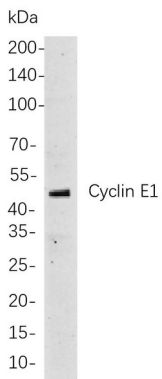
背景

細胞局在: 核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。

異なるサイクリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK2 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能する。CDK2 の活性は細胞周期の G1/S 期移行に必須である。このタンパク質は G1-S 期境界に蓄積し、細胞が S 期を進むにつれて分解される。この遺伝子の過剰発現は多くの腫瘍で観察されており、染色体不安定性を引き起こし、腫瘍形成に寄与する可能性がある。このタンパク質は、ATM 遺伝子座にマッピングされた核タンパク質である NPAT タンパク質のリン酸化と関連し、そのリン酸化に関与することが明らかになった。NPAT タンパク質は、

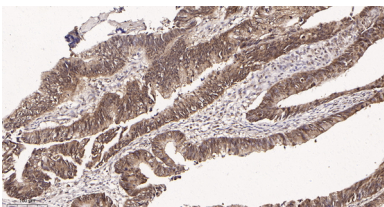
研究分野

画像データ

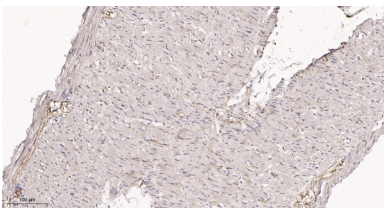


HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析

サイクリン E1 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン E1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、サイクリン E1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。